

◆ 平成 24 年度（前期）県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）報告一覧

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
人間文化学部 国際文化学科	学科長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務ワーキング+学科教員会議（毎月）</li> <li>・カリキュラムの見直し意見徴収アンケート（9月）</li> <li>・ファシリテーションを中心とするグループワークの研修（6月）</li> </ul>	学科教員会議およびメール 図書館ラーニング グコモンズ	<p>テーマ：カリキュラムに関する見直し再編と関連事業</p> <p>参加者数：学科教員（全員）</p> <p>簡単な状況報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度来の検討結果を踏まえ、6月に学科長より新カリキュラムの基本的考え方が提案された。この基本提案を承けて、さらに新ワーキングにより再編をもにらみ、7、8月に検討を重ねた。修正案を含め新たなカリキュラムに対しての意見徴収も実施した。ただし、新カリキュラムへの移行は未定である。</li> <li>・重点事業に採択されている「広島型グローバル人材」養成のあり方に関する検討～教員のファシリテーション能力向上の観点から～ に関して、ワークショップを実施した。</li> </ul>
人間文化学部 健康科学科	栢下 淳 中瀬古 哲	4月3日(火),5月8日(火), 6月5日(火),7月10日 (火),8月9日(木) 17:00~17:30	1215 会議室	<p>テーマ：実験系学科における「教育の質保障」と「SNE(Special Educational Needs)」の統一</p> <p>参加者数：15~19名</p> <p>簡単な状況報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年各学年に1名は該当の学生が存在する（入試の在り方等にも課題が存在するのか）。</li> <li>・相談室，教学課，チューターの連携の必要性（連携無しに対応は不可能）</li> <li>・相談室，教学課，チューターの連携の難しさ（共有・交流する情報の質と範囲）</li> <li>・学生への配慮と学士力の質保障の関係をどうとらえれば良いのか。</li> </ul>
経営情報学部 経営学科	平野 実	6月17日(日)	広島工業大学専門 学校 研究室，演習室， 学生の自宅等	<p>テーマ：「日経テスト」を活用した経営・経済知力向上への取組み</p> <p>参加者数：経営学科 栗島ゼミ 8名，平野ゼミ 7名（3年生）</p> <p>簡単な状況報告</p> <p>第8回実績：団体賞ゼミ部門 栗島ゼミ 第6位，平野ゼミ 第7位（17チーム中）</p> <p>第8回日経テストのほか下記のように，ゼミやサブゼミにおいて，説明会・勉強会を実施した。また，学生は，自ら対策・予想問題を作成しインターネットを用いて各学生へ送信し，「日経テスト」受験に備えて，経営・経済知力向上にむけた自律的な学習に取り組んだ。</p>
生命環境学部 環境科学科	五味 正志	6月8日(金) 2時限 講師：原田 浩幸 教授	庄原キャンパス 2302 講義室	<p>テーマ：教育システム再編に向けた教育認定プログラム等の検討</p> <p>参加者数：18名</p> <p>簡単な状況報告</p> <p>教育システム再編集において，生命環境学部では JABEE 等の教育認定プログラムの取得を検討することが求められており，本学部の教員はその内容について熟知しておく必要がある。そのため，前任の大学で JABEE 認証取得に関与され，またそれ以外の教育認定プログラムについても豊富な知識を有する原田浩幸教授に講師をお願いし，本学部教員を対象として情報を得る目的を実施した。原田講師から，前任大学における JABEE 認定取得の経過やその後の対応の利点と欠点について説明があった。また，それ以外の教育認定プログラムについても紹介があった。</p>

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
保健福祉学部 看護学科	山中 道代	① 学習会 第1回：8月21日（火） 13：00～14：40 （担当者：土路生，大内） 第2回：8月27日（火） 10：40～12：10 （担当者：宮本，山中） 第3回：8月31日（金） 13：00～14：45 （担当者：黒田，吉田） ② 伝達講習 第1回：8月31日（金） 14：45～15：30 （担当者：吉田） 第2回：9月4日（火） 13：00～14：30 （担当者：山中） 第3回：9月18日（火） 13：00～14：15 （担当者：黒田）	保健福祉学部 2416 会議室	テーマ：学生の学びを引き出す技法を身につけるための取り組み 参加者数：第1回 16名，第2回 16名，第3回 16名 簡単な状況報告 ① 学習会 関係図書（シミュレーション体験学習，看護リフレクション入門，看護教育を拓く授業リフレクション）を使用した学習会を実施した。担当者によるプレゼンテーションの後参加者によるディスカッションを行った。昨年度のFD活動を受け，今年度グループワークを工夫している参加者から，実施をふまえた意見が出されるなど，自由かつ活発な意見交換が行われた。特に，第三回学習会のディスカッションは，ファシリテーション技術を使い展開することを試みた。その結果，より深い内容での意見交換ができた。 ② 伝達講習 ・第一回内容：医学教育セミナーとワークショップ-経験学習サイクルを回しながら学ぶ専門職連携ファシリテーションスキル- ・第二回内容：シミュレーション教育における効果的な指導（ベーシック） ・第三回内容：シミュレーション教育における効果的な指導（アドバンスト I） ファシリテーションやデブリーフィングの概念や方法論に関しては前年度学習しているため，今年度はそれらが活用される場面に関するセミナーに参加した。実践的な場面の中でどのように行うのかについて，伝達講習を通じて理解を深めた。
保健福祉学部 理学療法学科	大塚 彰	・学科会議時の討議 →毎水曜日の4時限目 ・勉強会（月1回） →第2水曜日の4時限目	2406 会議室	テーマ：臨床実習中の学生の学習支援および学内での学習の進行に問題を抱える学生の支援／教育方法論に関する勉強会 参加者数：理学療法学科教員全員（12名）＋勉強会の場合は他学科よりの参加者を認めている。 ① 簡単学外における臨床実習中の学生の学習支援については，前期ですでに3回以上欠席している学生について，学科内教員よりの報告→チューターによる状況把握→学科での対応を検討・実施した。必要に応じてチューターが個別面談あるいは保護者との三者面談を実施した。 ② 学外における臨床実習中の学生の学習支援については，4年生の「総合臨床実習 I」において，問題のあったケース2件について検討し，教員による早期実習地訪問指導あるいはチューターによる複数回の実習地訪問指導を実施した。 ③ 教育に関わる勉強会は以下の内容で2回開催した。 1) 5月23日：理学療法教育における屋根瓦教育の試み（梅井助教） 2) 6月16日：国家試験の動向と対策（大田尾助教）
保健福祉学部 作業療法学科	土田 玲子	4月25日（水） 11：30～12：00	三原キャンパス 2416	テーマ：大学のピアサポート 参加者数：17名 簡単な状況報告 講師：藤巻康一郎 平成23年度から始まるピアサポートプログラムの説明，問題点の整理が提示され，学生同士の難しさ，教える立場と受容の立場の難しさ，新たな人材が必要等の指摘がなされた。

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
保健福祉学部 コミュニケーション障害 学科	城本 修	<p>①学生支援会議および毎月の学科会議</p> <p>②ST養成校連絡協議会への教員の参加（吉畑博代教授）（東京都） 5月27日 13:00～</p> <p>③学科セミナーの開催 ・7月4日(水) 12:15-12:55 ・9月20日(木) 12:15-12:55</p> <p>④実習指導者会議 ・5月14日(月)4年生の実習指導者 ・7月21日(月)3年生の実習指導者</p>	<p>①1309・1310 講習室</p> <p>②八重州カンファレンスセンター（東京）</p> <p>③1309/1310 演習室</p> <p>④4102 地域連携センター</p>	<p>テーマ：①学生支援の充実②専門職教育の効果的な方法についての検討③専門・関連分野に関する知識の充実</p> <p>参加者数：①コミュニケーション障害学科教員 13～17名 ②連絡協議会への参加 本学科教員 1名 ③いずれも本学科教員では 7～10名 ④5/14 学外実習施設指導者 14名 本学科教員 13名 7/21 学外実習施設指導者 13名 本学科教員 13名</p> <p>簡単な状況報告 ①学生支援にかかわる情報の共有をはかった。個別の事例への対応のほか、実習時の対応、などが中心となった。 ②ST養成校連絡協議会は発展的解消を図り、今後は全国リハビリテーション学校協会として新たに出発することとなり、6月9日に第1回の総会が開かれることとなった。 ③それぞれの教員の専門領域での研究の紹介があり、いずれも、参加教員の学びの機会ともなった。 ④臨床教育に関する本学科での取組みを紹介するとともに、実習生をとおしてみた大学の教育について、学外実習施設の指導者から意見をいただき、今後の実習のあり方について検討した。</p>
保健福祉学部 人間福祉学科	細羽 竜也	<p>(1) 社会福祉士・精神保健福祉士養成に向けた実習教育に関する教育研究事業</p> <p>①社会福祉士実習教育会議 4～7月まで(月1回)</p> <p>②精神保健福祉士実習教育会議 4～9月まで (4/23, 5/7, 5/14, 5/21, 5/28, 6/4, 6/11, 6/18, 6/25, 7/2, 7/9, 7/23, 7/30, 8/6, 9/12, 9/26: 月曜日 2限目定例 計16回)</p> <p>(2) 地域の障害者との交流会を中心としたボランティア教育事業 ・地域の障害者家族とのビーチバレー・食事交流会 5/19 10:00-13:30</p> <p>(3) 福祉士養成科目の教育事業の体系化推進 ・人間福祉学科ピアレビュー事業：学科会議 5/23, 6/20, 7/18 (3限目または4限目)</p>	<p>(1) ①三原キャンパス会議室 ②三原キャンパス 4518 演習室</p> <p>(2) 三原キャンパス</p> <p>(3) 県立広島大学三原キャンパス 主に4102会議室</p>	<p>テーマ：学科 FD の取り組みの体系化に向けての準備作業</p> <p>参加者数：(1) ①約10人(本学教員のみ), ②4～5人(本学教員のみ) (2) 約70人(本学三原C学生)および約120人(障害者・家族・施設職員) (3) 20人程度(人間福祉学科教員)</p> <p>簡単な状況報告 平成24年度前期において、人間福祉学科では従来の①実習教育の検討事業および②地域ボランティア教育事業のほか、③福祉士養成科目のピアレビュー事業に着手した。</p> <p>(1) 実習教育事業について 福祉士養成の新カリキュラム移行を受けて、実習教育内容の充実を図るため、社会福祉士・精神保健福祉士各実習教育分科会で教育内容の検討を行っている。</p> <p>(2) 地域ボランティア教育事業：従来通りの実施</p> <p>(3) ピアレビュー事業 現在、レビュー評価の方針と評価対象の特定化の合意形成を終えた状況</p>